

村松友視

*muramatsu  
tomomi*



旧人類

*talk & essay*

非ず

村松友視

*muramatsu  
tomomi*

朝日新聞社

旧人  
*talk & essay*

類に非ず

旧  
人  
類  
に  
非  
ず  
Printed in Japan  
ISBN4-02-255706-0

第1刷発行1987年6月1日

・

定価1,000円

・

編著者\村松友視

発行者\八尋舜右

印刷所\凸版印刷

発行所\朝日新聞社

東京都中央区築地5-3-2

〒104 振替東京0-1730

電話 03-545-0131(代表)

編集一図書編集室

販売一出版販売部

---

旧人類  
に非ず

目次

なんてつ  
たつて  
女王

七

美空ひばり

傾<sup>かた</sup>いても  
傾<sup>かた</sup>いても  
歌舞伎

二

市川猿之助

極め付き、  
ぞつこん  
いい女

三五

岸恵子

人間観察  
免許皆伝の  
面白世界

四九

笑福亭鶴瓶<sup>つるべ</sup>

男は  
黙つてコム・  
デ・ギャルソン

六三

川久保玲<sup>れい</sup>

徳光的  
地味派手世界の  
コロ

七七

徳光和夫

華と艶を  
生きたる  
颯爽男道

九一

九重親方

しゅーが  
ねーだろ  
ジャズなん  
だからあ

一〇五

山下洋輔

イノキ  
過激な  
反省の巻

二九

アントニオ猪木

うた  
詞と詩に  
曲かきなつて  
見返り美人

二三三

中島みゆき

都会、下町、  
山肌に、  
コンクリートの  
陰翳礼讃

— 一四七 —

安藤忠雄

はるばる  
来たぜ、  
函館気分

— 一六二 —

太地喜和子

いろいろ  
演ったが、  
ブルースの風が  
いま一番！

— 一七五 —

原田芳雄

二番手ゲリラ  
白馬童子  
只今絶好調

— 一八九 —

山城新伍

私、  
対談のイロハ  
教えます

— 二〇三 —

吉行淳之介

---

旧人類に非ず

---

---

「週刊朝日」86年9月12日号から12月26日号まで  
連載の「村松友視の人物ライプスポート」を改題

---

# 美空ひばり

昭和十二年、横浜生まれ。

九歳でデビューして以来、

絶妙の節回しと優れた歌唱力で

「悲しき口笛」「リンゴ追分」「港町十三番地」

「悲しい酒」などのヒット曲を生み、

四十年には「柔」で第七回日本レコード大賞を受賞。

歌謡界の女王とよばれる。

「東京キッド」「伊豆の踊子」など数多くの映画に出演。

六十一年芸能生活四十周年を迎えた。

なんてつ  
たつて  
女王



村松 対談って、ほとんどやってらっしやらないんですって。

美空 チョイチョイは出てるつもりなんです、ほかの方から比べるとちよつと少ないみたいですね、数が。そういうことで、雑誌嫌いか、マスコミ嫌いという評判になつて……。いまならみなさんわかつてきてくださったんですけど、やっぱり母がいたものですから。もちろん私の気持ちのとおりにしやべつてくれるんですけど、受け止め方ですいぶん誤解があつたりして、えらいんだな、女王なんだなというイメージが濃くなつたみたいです。村松 噂が噂を呼ぶ世界ですからね、芸能界というか、ひばりさんの生きておられる世界は。

美空 昨日も若いインタビュアーの人から、ひばりさんに会うには名刺が十枚いるんですねといわれたんです。どういう意味かわからないから聞いたんですね。そしたら、それくらい持つていかないと会えないという噂があつたというんですよ。(微笑)

村松 出会えるまでに十人の壁がそびえたつて。(笑)

美空 よく考えてみると、私には周りにいろんなスタツフがたくさんいて、その人たちに気を遣つて、一人ずつに、名刺を渡していたんじゃないでしょうか。

村松 噂の出所は、そんなところでしょうけど、すこし以前には、そういうイメージはないこともなかったですよ。

美空 このごろは、一対一で、じかに名刺を受け取つておしやべりをするこゝになつたけれど、当時は、私は名刺を受け取つて話さない立場ですからね。全部おフクロがやつてましたから。そういうことで、私にはわからない噂が流れていたらいいですね。

村松 昨日ね、終夜営業で魚を食わせる店でね、明日ひばりさんと会うんだつていったん

です。とにかく第一回目で、しかも相手がひばりさんなのだから、どういふ対談にしようか、プランがこんがらがっているわけですよ、こっちは。で、誰かれなしに救いを求めたくなりまして(笑)。そのマスターに、ひばりさんに何かいいたいことはないかって聞いたんです。すると、「歌がお上手ですねって伝えといてください」っていうんですよ。

美空 あら、まあ、光栄なお言葉っていわなきや。(笑)

村松 ホント、すごいですよね。こういう神経で対談やれば気が楽になるんだろうな。

美空 私がよく受ける質問で、「ひばりさん、どうやってたら歌がそんなにうまく歌えるんですか?」というのがね、あるんです。これ、困っちゃうんですよ。聞く方がうまくいと思つてくださるからうまいんであつてね。歌は誰でも歌えるんですから。(微笑)

村松 僕がモノカキになる前、会社に勤めながらアルバイトで原稿を書いていた時期があるんです。ある作家の方に、風呂場で歌を歌うと自分はすごくうまく思えるけれども、客の前で歌わなきや、本物にはなれない、ダメだ。そういうところで書いてみるっていわれたことがあります。書くのは誰でも書けるんです。ただ人をうならせるかどうか、は別物なんですよ。

ファンと呼吸を合わせないと舞台は光らない

美空 作家の方たちの仕事というのは、一つのができあがるまでにはあれだけの活字があるんですから、私たちの仕事と違って大変なことで、私も歌つてるときには孤独なんですけど、作家の方のもっと孤独なんじゃないかと思えますね。誰も周りにいないし、独り閉じこもってあれだけのことを書くんですから、よっぽど何かの助けがないとね。

村松 たしかに助けは必要ですよ。周りにいる編集者とか、その後ろにいる読者とかがね。

美空 私の場合、歌い手の立場でいうと、助けというのはお客さまの声援と拍手ですから、これが少なかったり、自分が思うところで拍手をいただけなかったりすると、まづかったのかなとか、お客さんが乗ってこない場合、それまでに時間がかかる場合は、ああ、構成、選曲がまづかったのかなあとか思うんです。でも、こればかりは、幕を開けてみないとわからないんですね。だから幕が開いて、構成をずいぶん変えるときがありますよ。

村松 なるほどね。

美空 自分が一応構成して、自分なりに乗ってみようかなという構成をして幕が開いてしまふ。そうすると、自分の計算と違って全然乗ってこない、そこで乗ってきてもらわないと困るのに。これは曲の入れかえが必要だと自分で感じるんです。だから、入れかえてみたりするんです。そんなに大ざっぱにはできませんけど、そうすると乗ってきてくれるんですね。そういうむずかしさがありますね、生の舞台は。

村松 ぼくらは書いてるときは何もないですからね。開高健さんが前にいつてたんですが、作家の作業はピンに手紙をつめて無人島から流すような孤独な作業だ、と。どこかに届いたという手応えがあるまで何もわかんない。(笑)

美空 私の場合はすぐにわかります。(微笑)

村松 逆に、すぐわかる怖さがあるんでしょうけど、お客さんとの呼吸をはかる能力っていうか、そういうものがひばりさんには天性のものとして備わってるんでしょうね。

美空 ただ、出ていってすぐ握手されて、「柔」を歌ってくれ、といわれると困っちゃうん

ですよ。最後のほうに「柔」を組んでるのに、いきなり「柔」を歌ってくれといわれるとねえ、とまどっちゃって（笑）。でも、そのおじさんは大勢のお客さまの中のたった一人だけれども、言い聞かせないといけない、安心させなきゃいけないと思うから、「おじさん、あとのほうにちゃんと歌うから待っててね」といって、それから始めるんです。畑仕事をした、ざらざらの、こんな分厚い手で握手するんです。たまらないですよ、もうグツときちやって。だから「おじさん、土のにおいがするわね」って話してあげるんです。そして、おじさんも、たまらない、うれしそうな顔してます。（微笑）

村松 そりや、うれしかっただろうな。

美空 このごろそういう会話が美空ひばりの中で出てきたんで、ちょっと遅かりしですけど、自分なりにいいなと思うんですね。前はそういう部分が私の中になかったですから。ただ、話すということのむずかしさがね。私の場合、真っ白で出ていきまして、そのときのお客さまの雰囲気を見ながらお話しするんです。それに納得（とくべん）ですから、ときどきとまどっちゃうこともあるんです。

村松 いやあ、うまかったですよ、姫路のとき見てたら。しゃべりも。

美空 そんな、ホメないでくださいよ。（笑）

「美空ひばり」というジャンルがある

村松 ぼくは、生のひばりさんを見たのは、小さいとき一回と、霞町の店で一回、それとこの前の姫路と三回なんです。その姫路で生のコンサートを見て、すごく寂しいこともおありになったんでしょうけれども、すごくね、美空ひばりにとっていい季節が訪れてい

るな、という気がしたんです。その季節がいろんな犠牲のもとにやっときたな、という気がしましたね。

美空 そう思っていただければすごううれしいですね。ただ、舞台にあがった美空ひばりは、お客さまにそういう心配をさせてはいけないという責任があるのと、それが私の宿命ですから、舞台に立つまでに解決しておかないといけないんですね。だから、ほとんど不眠症状なんですよ。

村松 美空ひばりの宿命ねえ。

美空 ええ、でも、それはそうなんです。だから、村松さんがおっしゃってくれた、舞台を見てとても明るい美空ひばりを見てくださった。それができるといふことは、決して無理にやっているとということじゃなくて、私の中でふっきれたんじゃないかと思うんですね。悲しいこともありましたが、ふっきれたんだと思うんです。一人で歌わなきゃしようがない、ということになったからじゃないでしょうか。きつとそうだと思うんです。でないと、なかなか嘘の笑顔はできないですから、いくら仕事でも、商売でもね。

村松 そりや、そうですね。でも不眠症の本当の解決方法って何かないんですかね。

美空 人間って弱いなと思うんですけど、どうしてもときはお酒に頼ってしましますね、なんにも頼れないから。

村松 酒は、昔から強いんですか。

美空 昔のほうが強かったんですね。でも、眠れなくなったときは、だれにも語れないです。から、語る者がいないですから、枕もとにある自分の手帳に詩を書いたりするわけですね。おフクロが癒とわかってからの何年間でも、これからおフクロがいなくなったら、私一人

で歌っていかなきやいけないのかな、そうなったときの心がまえが必要かなと思ったりして、あまりうまく書けなかったんですけれども、「夢一人」という詞ができてまして、イルカちゃんに曲をつけてもらったんです。これからは一人、という気持ちをあの歌の中にだしてみたいですよ。

村松 この間、舞台で、演歌あるかぎりひばりが頑張らなきやしようがないみたいなことをおっしゃったでしょう。だけど、美空ひばりという名前で、一つのジャンルを考えちゃうと、演歌を守ることになるけど、そこが抜けてもいいみたいな気がしましたね。美空 いろんなものを歌わせていただいていますからね。先月聴いていただいた「夢一人」、今度、小椋佳さんの「旅ひととせ」というLPも出して、別に「愛燦々<sup>さんさん</sup>」というのも出ましたけれど、小椋佳さんもどこで美空ひばりを見つけてくれたのか、私の声とか、味の出る音とか、そういうのをよくご存じで、作り上げてくださったな、と思うんです。

村松 味の素のCMソングになってるやつ？

美空 ええ、でもね、最近ずいぶん流れなくなっちゃったわねなんて、ついこの間、うちの子たちが調べたんですよ。そうしたら、「いまお中元の時期ですから、ほかの方のCMが出てるんで、すぐに、もうすぐひばりさんのが出てきますから」って、そういう説明があったそうですよ。（笑）

村松 ハハハ。

美空 さっき村松さんがおっしゃったのとは違うかもしれませんが、私も演歌って分けちゃいけないと思うんです。例えば岡林信康の世界でも、小椋佳さんの世界でも、イルカちゃんの世界でも全部同じだと思っんです。私の世界にちゃんと入ってこれるわけ。私も